

切れ目のない支援の引継ぎの仕組みづくり

資料6 1

～ 情報共有ツールを活用した仕組み～

現状・課題

成人期まで使える情報共有ツールが無い
所属機関や支援者が変わる際、必要な情報のアンマッチや情報不足により、支援の停滞が起こりがちである
新たな支援者につながっても、障がい特性や支援経過の共有が不十分なため、当事者・家族と支援者間の信頼関係の形成に時間がかかる

めざす姿

当事者・保護者と支援者間、または医療、保育、福祉、教育、就労等の各分野の支援者間で、個々の発達障がいの特性や支援に関する情報、ニーズ等の共有がスムーズに行える「情報共有ツール」がある

各分野の支援者間で、個々の発達障がいの特性や支援に関する情報共有がスムーズに行われ、ライフステージを通じた切れ目のない支援の引き継ぎが行える仕組みがある

取組内容

- 【1】 ライフステージの移行時や支援機関(者)がかわる時に、「発達障がいの特性」「ニーズ」「支援の方向性」などの引継ぎが適切に行われていない(行われている)状況と原因を明らかにする 「他都市への調査」「医療、福祉、教育、就労等の各関係機関への調査」
- 【2】 共有すべき「特性、ニーズ等の情報」「支援内容」を整理し、「切れ目のない支援の引継ぎ」を補完するための「情報共有ツール」を作成する
- 【3】 地域の実情に応じた「切れ目のない支援の引継ぎのための仕組みづくり」を検討する

29年度は、他都市への調査、各関係先への調査を実施し、支援の引継ぎの現状と課題を把握・分析する。
調査結果については、HPを通じて広く公表するなど「支援の引き継ぎの重要性」についての理解促進や意見収集につなげる

スケジュール

【1】 (29年度) : 「支援の引継ぎ状況」「支援に必要な情報」の調査

【調査先】

当事者・保護者、医療機関、相談機関、福祉サービス事業所、所属校園、企業、民生委員など市民活動支援員、弁護士等司法関係者、区役所 など

【調査方法】

聞き取り、個別送付 など 調査では、支援の引継ぎに関して「上手くいった事例」「上手くいかなかった事例」の収集も行う。

調査を通じた支援の引継ぎの
重要性に関する理解の促進・共有

【2】 (29～30年度) : 「ワーキングチーム」での調査分析

発達障がいのある方に関わる各機関の実務者等で構成された「ワーキングチーム」を設置し、【1】の調査結果及び他都市の状況を踏まえ課題等を分析する

【3】 (30年度～) : 調査分析結果のHPでの公表・意見収集

【4】 (30年度以降～) : 「ワーキングチーム」での情報共有ツール作成、支援の仕組みづくりの検討

A 自治体情報

問1：発達障がい者支援について、関係部局で横断的に検討する庁内部署や庁内会議がありますか？

(1) 無 (2) 有(部署名: _____ 電話: _____)

問2：発達障がい者支援に関する情報共有を行なったり、支援（仕組み）の検討を行なう場（庁外の関係者を交えた）がありますか？

(1) 無 (2) 有(名称: _____)
(事務局連絡先: _____)

B 情報共有ツール（サポートブック等）の作成状況

問1：情報共有ツール（サポートブック等）を作成していますか？

(1) 「有」 (2) 「無」

- ・(1) 「有」の場合、【1】から【6】及びC、Dの設問に回答をお願いします。
- ・(2) 「無」の場合、【7】【8】の設問に回答をお願いします。以上でアンケートは終了となります。

[【1】から【6】までは、情報共有ツール（サポートブック等）を作成されている自治体への設問です。]

【1】配付対象者について（複数回答可）

- 診断の有無を問わず希望者全員
- 診断のある方（及び家族）
- 支援者が必要と判断した方（及び家族）
- その他（ _____ ）

【2】配付の方法・機会について

（複数回答可。また、（ ）内の選択肢にも記入してください。）

- ホームページからのダウンロード
- 紙媒体で希望者へ配布（交付窓口: _____ ）
- 診断時に医療機関で配布（希望者・全員）
- 健診時（乳幼児・就学時）に配布（希望者・全員）
- 入学（園）説明会時（保育園・幼稚園・小・中・高校・大学・その他 _____ ）に配布（希望者・全員）
- 障がい者手帳申請時に配布（希望者・全員）
- 障がい福祉サービス利用申請時に配布（希望者・全員）
- 発達障がい者支援センターや他の相談機関における相談時に配布（希望者・全員）
(他の相談機関の例: _____)
- その他（ _____)

【3】情報共有ツール（サポートブック等）への情報記入を行う期間はどの範囲を想定して作成していますか。以下にご記入ください。

例：乳幼児期から小学校就学まで

【4】情報共有ツール(サポートブック等)の形状についてお知らせください。(複数回答可)
手軽に持ち運べることを想定した大きさ・重さのノート又はファイル
家庭で保管することを想定したファイル
パソコンで管理できるデータファイルやスマホで確認できるアプリなど
その他()

【5】情報共有ツール(サポートブック等)について、改定等の予定はありますか。
無
有 改定する理由を教えてください。

()

【6】貴自治体作成の情報共有ツール(サポートブック等)の様式をご恵与くださるようお願いいたします。
(紹介しておられるホームページURL、PDFデータ等で結構です。)
(もし、紙媒体のみで郵送となる場合は、担当までお知らせください。)
また、都道府県内の市町村において作成している状況を把握しておられる場合、作成市町村名等をお知らせください。

作成している市町村名およびツールの名称：

()

[【7】・【8】は、情報共有ツール(サポートブック等)を作成されていない自治体への設問です。]

【7】情報共有ツール(サポートブック等)の作成について、検討されていますか。

検討中
検討予定
作成予定なし

【8】サポートブック等の情報共有ツールを活用し、支援の引継ぎを円滑に進めるために必要なことはどんなことがあるとお考えですか？(自由記述)

()

C 情報共有ツール(サポートブック等)の活用状況

問1：情報共有ツール(サポートブック等)の年間配付件数を把握しておられますか？

(1)把握していない (2)把握している

- ・「(1)把握している」場合、次の【1】の設問にお答えください。
- ・「(2)把握していない」場合は、問2へ進んでください。

【1】年間配付件数の多い順に、番号を並べてください。

就学前 小学校 中学校 高等学校 大学・短大・専門学校等

⑥ 学校卒業後(就労移行・就業訓練期間含む) 就職後

多い順：

()

問2：情報共有ツールの活用状況について把握しておられますか？

(実績件数の把握まで至らなくとも状況の把握で結構です。)

(1)把握していない (2)把握している

- ・「(1)把握している」場合、次の【1】から【4】の設問にお答えください。
- ・「(2)把握していない」場合は、問3へ進んでください。

【1】活用度が高い順に、番号を並べてください。

就学前 小学校 中学校 高等学校 大学・短大・専門学校等

⑥ 学校卒業後(就労移行・就業訓練期間含む) 就職後

多い順：

【2】活用状況については、どのような方法で把握されていますか？(複数回答可)

関係機関へのアンケート調査

各機関が行政等へ提出する実績報告から把握できるよう設定している

各種講座や研修会実施時の受講者アンケートから把握できるよう設定している

その他()

【3】活用状況の把握の中で、情報共有ツールの活用(支援の引継ぎ)が行われていない場合の理由について、把握されていましてらご記入ください。(自由記述)

【4】上記【2】にご回答いただいた場合、恐縮ですが調査結果についてご惠与くださるようお願いします。

(紹介しておられるホームページURL、PDFデータ等で結構です。)

(もし、紙媒体のみで郵送となる場合は、担当までお知らせください。)

問3：情報共有ツール(サポートブック等)及び「支援の引継ぎ」について、周知を行っている場合、周知方法及び周知先(当事者・家族、相談支援機関、所属校園、医療機関、行政、事業所等)周知のタイミング等についてご教示ください。

(例；ホームページに「情報共有ツールの活用」「支援の引継ぎ」の方法や例を記載、手引書を作成し配付、定期的に「情報共有ツールの活用」「支援の引継ぎ」に関するガイダンスを開催など...)

D 情報共有ツール(サポートブック等)の活用にかかる課題

問1：サポートブック等の情報共有ツールを活用し、支援の引継ぎを円滑に進めるために必要なことはどんなことがあるとお考えですか？(自由記述)